

NPO/NGO アジア キッズ ケアだより

【住所】〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原 1054-3 【発行者】代表:喜安美紀 【発行日】2012.6.23(通巻第9号)
【HP】<http://www12.plala.or.jp/asian-kids-care/> 【E-mail】kids@zpost.plala.or.jp 【設立】2004.2.11
【TEL】090-5912-4515 【FAX】089-985-0389 【郵便振替】口座番号:01600-5-13009 口座名義:アジア キッズ ケア
【ゆうちょ銀行】店番:169、店名:一六九店、口座番号(当座):0013009、受取人名:アジアキッズケア

アジアキッズケアの子ども支援活動を確実に一步一步前進していく中で、多くの方々のご協力やご支援をいただき、アジアやアフリカの貧困の孤児たちのサポートが広がってきたことを本当に感謝いたします。

今年度は、地元松前町社会福祉協議会によるボランティア活動助成、(財)愛媛県国際交流協会から「留学生と小・中学生等による相互理解と支援の架け橋事業」の助成をいただくことになり、心からお礼を申し上げます。

また、NHK総合テレビ「いよ×イチ(18:10~)」にて、アジアキッズケアの活動紹介が、事務所より生中継で12/15(木)に放映されました。番組の中で、団体発足の経緯、留学生たちと荷造りする様子、支援物資の中身、現地からの写真やレポート等の紹介があり、放送後に各方面から共感や励ましのご連絡をいただきました。

全国の支援者の皆様の暖かいまごころとご支援に感謝しつつ、会報第9号をお届けさせていただきます。

2012.6.23

アジア キッズ ケア代表 喜安 美紀

ガーナにおける新たな子ども支援活動の展開(ガーナ支援報告)

ガーナからの留学生アベナさん(教員:愛媛大学留学後帰国)、ダニエルさん(医師:長崎大学医学部)の仲介により、アフリカ医療支援団体CDDF(責任者:ボソンペン医師)との連携による子ども支援が始まりました。

ボソンペン医師(写真一番左)から、「今回、CDDFとアジアキッズケアの連携により、すばらしい働きをすることができました。今後、私たちのさらなる協同によって、より多くのアフリカの貧しい子どもたちと家族を助けるために、サポート活動を拡大できると確信しています。」とのメッセージが届きました。



ガーナ・CDDFからのレポートと写真(以下、ボソンペン医師からの手紙:粗訳)

「ガーナ・CDDFは、日本のアジアキッズケアから、親善メッセージとともに、服、靴、楽器、ペン、鉛筆、クレヨン、ノート、メモ、本などの支援物資を受け取りました。そして、CDDFの青年メンバー(ガーナ大学学生等)を通して、これらをガーナの貧しい子どもたちに贈呈しました。

青年メンバーが、アクラ市郊外の2学校を訪問し、貧困の子どもたちや親を亡くした子どもたちなどに配布しました。学校は、アクラのダングム東地区のドルゴボム小学校とニイ・ボイ町の聖アンソニーR/C小学校で、200人以上の子どもたちが学校で勉強するための文房具や楽器を受け取りました。また、70人の子どもたちが靴と衣類の贈り物を受け取りました。ドルゴボムの子どもたちは、「鉛筆とペンで、私たちは最善を尽くします...」と感動的な歌を歌い、青年団員にとっては忘れられないものになりました。」ボソンペンCDDF最高責任者より

現地リーダーによる自立的な子ども支援活動(マラウィ支援報告)



配布物資とモーゼス氏とアリナフェさん



配布した支援物資



ゴメ氏、ムウエンダマ夫人とエレナウくん



配布物資とティクハレナウさん

マラウィでは、マラウィ政府職員のモーゼス氏（2年間日本に留学、アジアキッズケアに加わる）を中心に、支援活動を進めています。今回の孤児たちへの支援物資の配布は、モーゼス氏、経済学者ゴメ氏、ムウエンダマ牧師夫人によって、トラックに積んで2日間にわたって行われ、一部地域は夜も配布しました。

この時の配布物資は、衣類、米、風呂用石鹸、洗濯用石鹸、赤砂糖、香料入りゼリー、料理用油、練り歯磨き粉、歯ブラシ、練習帳、ノート、ボールペン、オートミールのための大豆粉、食料塩、靴などです。すべての子供たちは、サポートを受けた後、とても幸せそうな笑顔の表情を見せました。そして、アジアキッズケアの継続した変わらないサポートに対して、純粋な感謝の気持ちを表しました。



購入した子牛



貧しい子供たちの住宅状況



サポートを必要としている子どもたち



モーゼス氏によれば、マラウィ国は、現在、たいへんな経済危機が起こっています。マラウィ通貨は、通貨価値が50%切り下げられて、生活必需品の価格は50～200%以上高騰しました。

私たちは、こうした経済危機の影響を免れ、孤児たちを安定して援助し続けることができるように、モーゼス氏の企画立案により、酪農業のための子牛（一番左の写真）を購入しました。このミルク販売により、利益を孤児たちのサポートに使うことができます。14か月後には搾乳を始める予定で、軌道に乗れば、毎月約400米ドルを生み出すことになります。今後、この収益基盤を強化するために、子牛を順次購入していきたいと思っています。

現地における自立的な支援活動の経済基盤の確立は、孤児サポートのプログラムを維持するとともに、さらに支援の必要な子供たちのサポートを拡大することを可能にします。私たちは、現在、孤児院建設を進めており、このことは彼らの生活・教育環境の改善に効果的であり、教育施設の充実した学校近くに建設を計画しています。

アジアキッズケアは、現地の実情を最もよく知り、信頼できる使命感を持った現地リーダーとともに、自立的な支援活動の実現を目指して、着実に前進しています。そして、この輪は次々と広がってきています。

孤児たちの劇的な生活・教育環境の改善（暗黒の表情から笑顔に）



路上でのエレナウ君(Before)



サポート後のエレナウ君(After)



健康が回復したサムソン君



支援が必要なコンドゥワニ君

孤児たちの生活・教育環境の改善例を紹介します。エレナウは、病気で両親を失い、ストリート・チルドレン生活で学校に行くこともできず、文字の読み書きも満足にできませんでした。私たちの支援を通して、彼の生活は劇的に変化し、学校に行って手紙等も書けるようになり、笑顔が見られるようになりました。

サムソンは、消化器系の病気により、食事を摂ることができずに大変衰弱し、命の危険さえありました。緊急支援により手術を受け、現在は体力も回復して、学校で勉強することが大好きな生活に変わりました。

コンドゥワニは、彼が所属する7クラスで一番の成績で、大学レベルまで進学して勉強する夢を持っています。私たちは、服や食料品等を贈りましたが、彼の夢を可能にするサポーターを求めています。将来、彼らが就職・自立することによって、ファミリー全体の生活基盤が確立し、受益者から支援者へと変化することができます。

マラウィ孤児のための緊急支援（一口2000円）をお願いします。

現在、モーゼス氏が取り組んでいる孤児院建設と自立的な孤児支援のための子牛購入にご協力をお願いします。アジアキッズケアの口座に、「マラウィ緊急支援」と記入して振り込んでください。全額を現地に送金します。

【郵便振替】口座番号：01600-5-13009 口座名義：アジアキッズケア

現地で子牛1頭を購入する費用・・・約600米ドル（約48,000円）